

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の意見を大切にしながら工夫して表現する力を育てる(書く・話す)。 ○日本語の歴史や、美しさを、誇りを持って享受する態度を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○他者の優れた表現に多く触れることができるような授業を展開する。 ○古典の文章、詩、などの朗読を重視した授業から、日本語の美しい流れを体感させる。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲が見られるが、知識の定着に結びつかない生徒が多い。スライドを用いるなどして、興味をもたせる工夫をしたうえで、小テストやワークにこまめに組みこませることで、知識の定着を図る。話し合い活動やレポートに取り組ませることで、思考力や表現する力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○写真、イラスト、動画などを活用し、興味をもたせる。 ○ノート点検などを丁寧に行い、授業改善や支援が必要な生徒の把握に役立てる。 ○知識定着のため、こまめに小テストを実施する。 ○単元の終わりにレポートを実施する。 	
数学	<ul style="list-style-type: none"> ○どの学年も、授業に対しては真面目に取り組んでいるが、技能的なことがなかなか定着しない傾向がある。反復学習や家庭学習を意識した指導をする。 ○論理的に考察したり、統合的・発展的に考察したりする力が不十分なところがあるので、生徒が興味をもつような題材や、日常生活に関係のある題材を授業で扱い、自ら考えて取り組む学習活動を促すよう、指導改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○反復学習することによって基礎学力の定着を図る。 ○ICT機器を活用して、生徒たちが興味をもつような工夫を行う。 ○自らの考え方を説明できるような指導場面を設定する。 ○すぐに解説するのではなく、ヒントを与え生徒自らの力で答えを導かせ、分かる喜びを経験させる。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> ○「思考・判断・表現」の分野に課題がある。観察・実験の結果を考察し、自分の言葉でまとめる作業を通して、思考力・判断力・表現力を育て、それをさらに次の学習につなげていく指導方法の工夫が必要である。また、生徒が主体的に活動できるよう、興味・関心をひくような授業展開を意識する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○身近な出来事や事象を教材とするなど、導入の工夫をする。授業の中で、与えられた課題に対して、科学的な根拠を基に自分の考えをまとめさせる。同時に、他の生徒との対話を通して表現力を身に付けさせる。また観察の結果を画面で表示したり、実験の結果のノートの評価を通して、思考力・判断力・表現力を向上させる。 	

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ○歌唱指導ができない状況のため、表現力や、他者と関わりながら共に表現を深めていく力を、器楽や創作等の他の領域で指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○器楽の演奏では、ワークシートや学習カードを活用し、「音を鳴らす」「正確に演奏する」ということだけでなく、「自分はどのように演奏したいのか」という意識を大切にさせる。また、グループ単位で練習を行い、お互いの演奏を分析、評価する機会を設ける。 ○鑑賞の授業では、他者の意見に触れる機会や、意見交換の機会を増やす。 	
美術	<ul style="list-style-type: none"> ○教員の指示を聞き、積極的に活動しようとする姿勢が多く見られる。 ○一部の生徒に、集中力が欠ける場面がある。 ○生徒が授業の主題を理解することで、主体的に表現活動や鑑賞活動をしようとする姿勢を引き出していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心が高まる教材を設定する。 ○導入授業を工夫する。(生徒の主題への理解度を促進する) ○作品制作の背景、表現活動の目的を認識させる授業を展開して「ねらいをもって表現する楽しさ」を実感させていく。 ○描画道具の使用方法に習熟させる。 ○表現活動をする前提となる知識や技術を身に付けさせ、作品に結実させていくことの大切さに気付かせていく。 	
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ○集中力があり、一つ一つの学習に丁寧に取り組むことができる生徒が多い。 ○基礎体力の向上を図るとともに、各種目の基本技能や知識を身に付けさせる必要がある。 ○身に付けた体力・知識・技能を実践で生かしたり、課題解決したりする上で必要な思考力・判断力・表現力をさらに育成する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発達段階に応じたスモールステップの学習を実践し、【できる・わかる】→【楽しい】→【もっと】というサイクルをつくり、基礎基本の定着を図る。 ○個別指導の機会を多く設ける。 ○生徒自らが課題や成果を明確にし、それに合った練習方法を選択したり、模索したりする学習を段階的に増やしていく。 	
技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に取り組んでいるが、知識の定着は生徒によって差が出てきている。 ○実習を通して学んだことを自分の言葉で表現する力を高める必要がある。 ○授業で行った学習によって、日常生活がどれだけ改善されたのか把握しにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ICT機器の活用などを通して、学習の振り返りを自主的に行えるように支援するとともに、実習したことをまとめさせることによって表現力を身に付けさせる。 ○継続して理論の裏付けができるよう、実技との時間配分に気を付ける。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○文法事項を取り扱う順序に苦慮しており、生徒に定着させきれていない。 ○教科書本文の内容理解が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ○取り扱われる文法事項を、生徒が理解しやすい順序に授業内で取り扱い、必要に応じ指導時数を調整して、学習内容の定着を進める。 ○難解な構文・慣用句などを丁寧に指導するために、演習プリントの内容項目に含めてさらなる定着を図る。 	